

黄蓮谷右俣

2016年12月30日(金)～2017年01月01日(日)

メンバー：L坂野(記)・松野

一度はクリスマスに試みた黄蓮谷。5合目までアプローチはしたものの、雪崩を警戒して手もつけずに敗退した。コンディションが悪すぎたせいもあるが、年末年始のこちらが本命だったからだ。今度は安定した晴天続き。風の無い日を選んでの再挑戦となる。

【1日目】

年末ということもあり駐車場は混雑していた。元日の準備中らしき駒ヶ岳神社を迂回し、登山道に入る。標高を上げる前からうっすらと雪が付いているところを見ると、氷のコンディションは悪くなさそうだ。期待がある分、数日前よりもペースが上がる。そのおかげもあって、賑わう五合目のテント場で空きスペースを見つけることができた。



【2日目】

5時半行動開始。ヘッドランプで踏み跡を追いながら谷へ降る。藪と凍ったレンゼのなかなかにハードな下降路だ。ダブルアックスを頼りに慎重にバックステップ。赤テープを見つけた辺りで道が良くなったところから察するに、もっと降りやすいルートがあったのでは？



黄蓮谷、千丈の滝に着いた頃には明るくなっていた。水流の両脇は凍っているが、薄くて登れそうもない。



右岸を高巻くと谷の様子が変わってくる。急に水面が凍り始め、坊主の滝はバッチリ氷結していた。やる気になった松野さんがリード。ガイドブックには50mとあるが1ピッチでは抜けきれず、残りが私に回ってきた。枝沢の六丈の滝と繋がっており、危うくそちらに迷い込みそうになる。というか、実際に迷い込んだ先行者が目の前に…。彼らのトレースに引き寄せられたのだ。



以降は安定した氷上歩きが続く。左俣との分岐を過ぎると、意外なことに踏み跡が見受けられなかった。



途中に大規模な雪崩跡を発見。クリスマスの撤退は正しかった。デブリの上、何の気なしに取り付いたのが奥千丈の滝だったらしい。らしい、というのは小滝が繋がったものには見えなかったためだ。どこからどこまでが正式に奥千丈の滝なのか、判別がつかない。ただ延々と続く緩斜面はふくらはぎにくる。私のアイゼンはモノポイントだが、2本爪だと多少は違うのだろうか。



奥千丈を越えると積雪量が増え、きついラッセルとなる。特にインゼルと思しき場所は雪が深い。



やっとのことで奥の二股に到着。正面の壁は迂回できるのだが、アイス成分を補うために正面突破してみる。氷が硬くて思いのほか苦戦。フイフイにテンションしながらスクレーをねじ込んだ。だいぶ時間を無駄にしたかも。



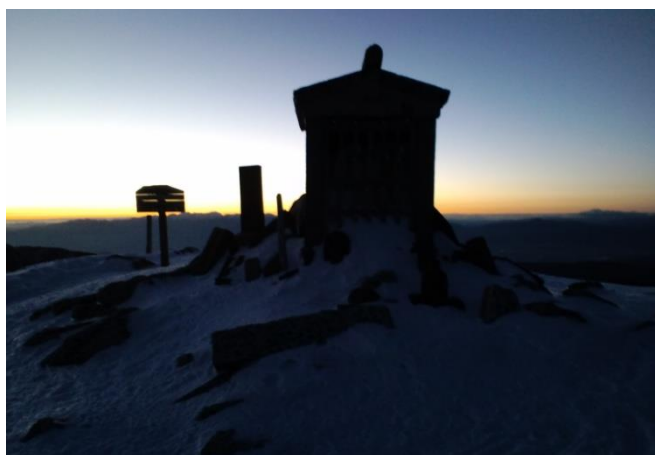
すぐに最後の滝、奥の滝へ。松野さんリード。傾斜こそ緩いものの長いピッチで油断できない。幸い氷が厚く、スクリューは根元まで入った。



あとはひたすら稜線を目指す。少し方向を誤り、山頂より1本東側の谷筋を経て黒戸尾根に合流する。



5時過ぎ、暗くなる前に山頂に到着。下山はヘッドランプ頼りになるが、黒戸尾根のトレースはしっかりしている。もう急ぐ必要もないと判断し、長めの休憩をとった。



結局テントに着いたのは7時過ぎ。それから米を炊き始めたので、就寝はかなり遅くなった。この年最後の食事はタイカレー。

【3日目】

前日の行動時間が長かったため、のんびり起床し雑煮をすする。周りのテントからはだいぶ遅れての出発だ。

下山路の凍った地面は滑り易く、アイゼンを余計に磨り減らす破目になった。

最後は駒ヶ岳神社に初詣。元日だからか、ミカンをもらえて有難かった。



〈コースタイム〉

1日目：竹宇駒ヶ岳神社(09:00) — 五合目(15:00)

2日目：五合目(05:30) — 千丈の滝(07:00) — 二股(09:00) — 奥の二股(13:15)
— 山頂(17:00) — 五合目(19:15)

3日目：五合目(07:40) — 竹宇駒ヶ岳神社(11:00)

以上